

多様性、どこまでが

橋中学校 三年 石川 穂乃

「多様性」最近耳にすることが増えるようになってきた言葉です。同時に色々と課題もあり日々ニュースになっているのを目にすることも増えました。そんな多様性という言葉を、私はどこにでもあるあたりまえな、しかしとても難しい底の見えない言葉の様に思います。

先日、飲食店で食事をしている時にホールにいる店員さんにピアスが付いている姿が目にとまりました。それまではあまり意識をしたことがなかつたので少し気になつて店内を見回すと髪の毛も黒色ばかりではなく華やかな色の人がいたり、お会計をしようとレジへ行くとネイルをした店員さんがいました。その時はそのままやりすごしたのですが、何かもやもやしたものが残つていました。家に帰つてもう一度考えた時に浮かんできたのは衛生面についてのことでした。アルバイトのルールやマナーにとても詳しいという訳ではないのですが万が一、付けているピアスが運んでいる食事に入つたらどうするのだろうと考えました。その一方で最近では毎日のようにニュースなどで目にする多様性という言葉がやはり、私の頭に浮かびあがりました。

なんだか無性に気になつて、私はインターネットで多様性とは一体何なのかを調べてみることにしました。そうすると、多様性についてまとめたウェブサイトを少し見ただけで様々な考え方や意見が出てきました。これも多様性というのでしょうか。そこで今度は言葉の意味を調べてみました。そうすると、「色々な種類や傾向があること。」「変化に富むこと。」と出てきました。

そこで、先程の飲食店のことについて改めて考えました。服装や髪色で個性、つまり違いを表すということについて私は納得も共感もします。それが働くにあたつてのモチベーションになると言う人もいると聞きます。しかし、あくまでも前提としてあるのはそこは食事を提供する施設であるということ。だから当然清潔でなくてはならない。そこにあてはめて考えるとピアスやネイルは不衛生にあたるのではないかと思うのです。今は緩和する時代だ、多様性の時代だと聞きますが、不衛生という観点からはどうなのでしょうか。中にはホールスタッフは調理をしないから大丈夫だなんて言う人もいますが、提供するにあたつて運ぶ時に必ず触れる時間がある訳で、その可能性を考えたら、最低限の衛生的な身だしなみというのは必要だと思うのです。実は私はピアスを付けている上でその上から絆創膏で覆つている店員さんや、華やかな髪色でもくずさずしつかりきつちりと結んでいる店員さんも見たことがあり、今でも記憶に残っています。私はピアスがいけない派手な髪色がいけないということを伝えたい訳ではありません、私が考えるのはこの様な素敵で心遣いやこの意識こそをとても大切にしていかなくてはならないのだと伝えたいのです。

多様性についての理解やこれから社会で生きていく事を考えた中での中心的な捉

え方はそれぞれ一人一人の意識や相手を認めるといった心だと私は考えます。多様性という考え方によって社会の思考が色々な方向に広がっている今。それらを良い方向にスムーズに進めてくれる解決策の一つが「心遣い」であると私は信じています。

多様性とはすべての人が生きやすくなるための考え方だと思います。いいかえると、お互いが心温まる気持ちで生活していくことこそが多様性の意義ではないでしょうか。

だから私はその場に応じた状況を前提として、相手のささいな変化や様子に気づき、その相手を認めて素直な気持ちを伝えていきたいです。